

## いしばちだに いせき 石鉢谷B遺跡(鹿屋市古里町)

石鉢谷B遺跡は、鹿屋体育大学の西側にあります。調査では、主に古墳時代(約1,750~1,300年前)と縄文時代晩期(約3,000~2,000年前)の遺構や土器、石器が発見されています。

写真の土器は三叉文を施文した土器で、奈良県橿原遺跡の土器を基に名付けられた文様が施されています。遠く離れた鹿児島県の遺跡でも似たような文様の土器が発見されるって不思議ですね。何かしらの文化の流れがあったのかもしれませんが。

写真の磨製石斧は、主に木を伐採するために使われた道具だと考えられています。使いやすいように刃部まで磨いてあります。

写真の石皿は、直径60cmほどある大きな花崗岩でできています。木の実などを磨り潰した痕跡でしょうか、中央部が大きく凹んでいます。



三叉文を施文した土器



磨製石斧



石皿

## 子供たちの見学

令和4年1月5日(水)には、鹿屋市内の子どもたち12名が見学に訪れました。初めて発掘現場を訪れた子供がほとんどで、興味津々作業の様子を眺めていました。掘り出された土器や石器を見て、「すごい!」と感嘆の声をあげる子供もいました。また、発掘作業を行っている作業員さんに話しかけ、土器や石器を掘り出した時の気持ちを尋ねている子供もいました。和やかな雰囲気での見学となりました。

## 整理作業の見学と体験

令和3年7月9日(金)、調査センターの第2整理作業所(福山中学校跡)に、福山小学校の5・6年生の児童5名が整理作業の見学と体験に訪れました。土器や石器の実測などの作業を見学しました。また、実際に土器や石器に触り、重さや感触を確かめました。これらの体験を通して、昔の人々の苦労や知恵を実感することができたようです。



「かごしまの遺跡」は、ホームページからダウンロードできます。  
(公財)埋蔵文化財調査センターのホームページは、上野原縄文の森 (<https://www.jomon-no-mori.jp>) または、鹿児島県文化振興財団 (<https://www.houzanhall.com/zaidan/>) からお入りください。

QRコードからもお入りいただけます。

かごしまの遺跡 第26号  
発行日 令和4年1月31日  
編集・発行 (公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号  
TEL.0995-70-0574 FAX.0995-70-0575  
URL:<https://www.jomon-no-mori.jp>  
E-mail: maibunchosa@tuc.bbiq.jp



# かごしまの遺跡

第26号 令和4年1月31日

## 県内最大! 磁器窯跡群

## ひらさやきかまあとぐん 平佐焼窯跡群



1号窯跡(登窯)



のぼりがま  
登窯のイメージ図

(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センターは、江戸~昭和初期に生産された薩摩焼の窯の一つである「平佐焼窯跡群」の発掘調査を実施しました。

調査では窯の内部が複数の部屋からなる「連房式登窯」と呼ばれる窯の構造や、製品として使われず廃棄されたものを集めた物原、工房の可能性のある場所などが発見されました。これは、貴重な発見といえるでしょう。

それでは、近代薩摩焼のふるさとを追ってみましょう。

### 目次

- ・県内最大!磁器窯跡群…… 1
- ・平佐焼窯跡群…… 2
- ・薩摩焼とは…… 2
- ・平佐焼とは…… 2
- ・北山遺跡…… 3
- ・石鉢谷B遺跡…… 4
- ・整理作業の見学と体験…… 4

# ひらさやきかまあとぐん 平佐焼窯跡群(薩摩川内市天辰町)

平佐焼窯跡群は、薩摩川内市天辰町<sup>あまたつ かどぐち</sup>門口の川内川左岸、河口から約 14 km 上流の上床山(寺山)すそ部に位置しています。今回調査している窯跡は、標高 10~15m 程度で、窯跡群の中で最も川の近くにあります。天辰第二地区引堤事業に伴い、10 月から発掘調査を行っています。

## さつまやき 薩摩焼とは？ クローズアップ

薩摩焼は、江戸時代以降、薩摩藩(現在の鹿児島県と宮崎県南部)において生産された陶磁器の総称で、右の図のように多くの生産地(窯跡)がありました。日置市美山の窯場や始良市の龍門司窯などは現在も操業しています。薩摩焼には黒薩摩や白薩摩、陶石等を使った磁器の3種類があります。

## ひらさやき 平佐焼とは？ クローズアップ

平佐焼は、江戸時代から昭和初期にかけて生産された磁器で、特に江戸時代における薩摩藩磁器生産の中心地であり、県内最大の磁器窯跡群でした。その歴史は 18 世紀に佐賀県有田から陶工を招いて阿久根市脇本に開窯したことに始まります。今回発見された平佐焼窯跡群は、明治 7 (1874) 年頃、田中徳兵衛さんが開窯し、大正 3 (1914) 年から始まる川宮鉄道(のちの国鉄宮之城線)の建設によって窯は寸断されたといわれています。

## 現地説明会(平佐焼窯跡群)

平佐焼窯跡群の現地説明会を 11 月 3 日(水)に開催しました。約 120 名が見学にお越しいただきました。平佐

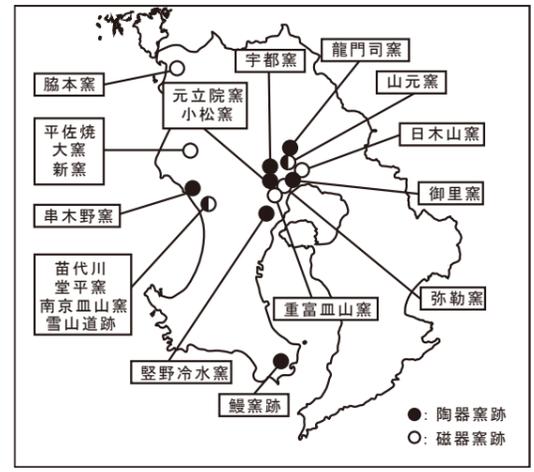
西地区コミュニティ協議会主催の「歴史さんぽ」でも利用され、多くの来場者があり、大盛況でした。



↑ 現地説明会の様子 →



物原(廃棄場所)



県内の薩摩焼の生産地

「薩摩焼研究の現状と課題」 渡辺芳郎 2019 参考



出土した遺物



# きたやまいせき 北山遺跡(阿久根市山下・波留)



柱穴跡

北山遺跡は阿久根市山下・波留<sup>あたご</sup>、愛宕山の麓に広がる標高約 33m の台地上にあります。遺跡のすぐ近くには、阿久根市立山下小学校があります。南九州西回り自動車道建設に伴い、令和 2 年度か

ら発掘調査を行っています。

令和 2 年度の調査では、主に鎌倉時代から室町時代と思われる<sup>ひさし</sup>庇付きの掘立柱建物跡が 2 棟、2 m を超える深い土坑が 4 基発見されました。また、霧島市上野原にある埋蔵文化財調査センターで行われている整理作業で、「金」と刻まれた土師器や中国産の白磁・青磁、長崎県産の滑石製石鍋、熊本県産の須恵器<sup>すえき</sup>などが出土したことが分かりました。このように、各地から様々な遺物が持ち込まれていることがうかがえます。

令和 3 年度の調査では、古墳時代の竪穴建物跡が 2 軒と鎌倉時代から室町時代にかけての掘立柱建物跡が 8 棟発見されました。また、それらを囲むように溝跡も見つかっています。さらに、2 m 四方の竪穴建物跡 2 軒と 2 m x 4 m の長方形の竪穴建物跡も見つかっており、今後の成果が楽しみです。

## 現地説明会(北山遺跡)

北山遺跡の現地説明会は、12 月 4 日(土)に開催し、地元を中心に約 100 名の見学者がありました。

当日は、これまでに発見された掘立柱建物跡とそれを囲む溝跡等について説明を行いました。また、昨年度の発掘調査で見つかった土師器や貿易陶磁器なども展示し、当時の生活の一部をのぞいてもらいました。さらに、見学者に特に好評だったのは、発掘体験でした。子供も大人も夢中になっていた様子が印象的でした。

多くの見学者が、北山遺跡の発掘調査状況や地域の歴史について、大変興味をもたれていることが伝わってきました。



竪穴建物跡・掘立柱建物跡



現地説明会の様子